

投資に役立つ

経済ワード

Vol.16

ハト派・タカ派

もとは政治の世界で使われていた用語で、ハト派は鳩の穏やかなイメージから穏健派、タカ派は鷹の力強いイメージから強硬派を示します。

経済の世界では、金融・財政政策についての立場などを示す時に使われます。



雇用重視のハト派、物価重視のタカ派

ハト派は「景気が悪化して、失業が増えること」が経済の安定を乱すとして、これを回避しようとします。このため、金融政策については金融緩和（利下げ）を、財政政策については歳出拡大や減税を推進する傾向が強いようです。

一方、タカ派は「景気が過熱して、物価が上昇すること」が経済の安定を乱すとして、これを回避しようとします。このため、金融政策については金融引き締め（利上げ）を、財政政策については歳出削減や増税を推進する傾向が強いようです。

■ハト派とタカ派



上記は全てを説明するものではありません。

金融政策に関する要人の発言に注目

各国の中央銀行は、自国の経済が持続的に成長するために、政策金利の上げ・下げなどの金融政策を実施します。世界的な景気減速懸念から、米国では政策金利を引き下げ、お金の流れを良くすることで景気減速を避けよう、という金融緩和姿勢を取り始めています。

各国の金融政策の方向性は、株式や債券市場、為替相場などに大きく影響します。そのため、金融政策に関する要人の発言が注目され、その際に「ハト派的な発言」や「タカ派の理事」などと報道されることがあります。例えば、米国の金融政策を決定するFRB（米連邦準備制度理事会）理事が

ハト派的な発言をすると、「利下げが行なわれ、お金の流れが良くなる」との見方から、米株式は上昇、為替相場は利下げによる米ドルの魅力低下により円高・米ドル安となる傾向があります。一方、タカ派的な発言をすると、「利上げが行なわれ、お金の流れが抑制されてしまう」との見方から、米株式は下落、為替相場は利上げによる米ドルの魅力上昇により円安・米ドル高となる傾向があります。

FOMC（米連邦公開市場委員会）開催予定日の前々週の土曜日からはブラックアウト期間とされ、FRB関係者は金融政策に関して踏み込んだ発言をしてはならないというルールがあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。